時事新報

火災保險

紅顔白髮もとより常なし人間の壽命は若少不定にして いつ知何なる變事の出來せんも知る可らざるに其脆く果敢なき身の上を以て恰も一家の燈明となり重き責任を負擔するは世間戸主の通例なれば若しも一朝不幸にして其身に無常の事もありては當に妻子をして路頭に迷はしむるのみか併せて九族にまでも其影響を及ぼすみとおきに非ず悔ゆるも詮なき次第なれば平常無事のときに於て覺悟を定むるみを肝要にして即ち生命保險の世に大切なる所以なり又天災地變その他不慮の出來事多くして爲めに巨萬の貨物財產を沒盡するに至るみとあれば常に貨物を取扱ふ商人の如きは海陸運送の都度萬一の變事を懸念して損耗を豫防するの工風あかる可らざるが故に是に就てか海陸保險業の必要あり各種の保險は何れも至極尤もにして危險の度大なれば大なるに隨ひ心ある者の決して怠にす可らざる所なれども扨我國實際の景況を見聞すれば保險の事たる元西洋船來の新法にして其必要は未だ世人の腦裡に感染するみと深からざるにや將又此等會社の基礎を危ぶむに由るものゝ何分にも充分の發達流行を見るに至らざるは我輩の心痛に堪へざる所なり

生命及び運送の貨物等に保險を付するの大切なる如くなれども火災の用意として財產を保險に托するの要用は又殆んど譬へる所あるべし祝融の猛威なるや瞬時にして人の財產を燒失し辛苦經營を烏有に歸して更に賴る所なし幸にして他に巨多の餘裕ある者は甚だしき困難に逢ふともなかるべしと雖も然らざるものは風雨だも猶は防ぐ能はざるの懷境に陷ゐる上に俗に云ふ弱目に祟り目にて不幸續出遂に一生を埋沒するに至るとさへ少おからず災害の最も慘酷なるものにして殊に東京は屢に火事を以て著るしく最近數年間を通計するに戸數二十八萬餘の中一年千戸に付七戸半の割合ありといふ餘程減じたる樣なれども今年以來は四谷、淺草、芝等相隨いて出火し人をして一日も油斷するを得ざらしむるに至れり斯る危險ある府內に住居する者が然らば此有勝ちなる災害に備へんが爲め如何なる用意をなしつゝあるやと云ふに巷說曰く消防夫に依賴するの外他に財產に保險を付して安固を求ひる者は至て稀あるが如し現に東京火災保險會社にて契約せる保險の件數は未だ五百內外に過ぎずといふ誠に寥々たるものゝして此一事を見ても市民が火災保險の必要を顧みざるの程度を卜するに足るべし蓋し保險を付するは主として萬一不幸の際の損失を償はんが爲めなれども此保險ある以上は災害ありとて格別經營するを要せざるとおれば平生に於て既に安心を買ふの代價たり安心は無形に存するの快樂あるが故に人動もすれば有形の財貨を投じて之を買ふを懶しとするが如くなれども苟も事理を解する者は其價の寧ろ貴きを知るなるべし今夫れ尋常家屋の火災を保險する其相場は百圓に付一年凡そ二圓に充たず千圓としては十五六圓にて事足るべきに此少額の金を惜んで一年の安心を求めざるは何事ぞや唯自身の愚癡如何にあるとにて平素十二分の散財を慎しむときは一年中に十餘圓を節約するみと敢て甚だ難きにあらず愚者節約はさるに非ず爲さゝるの罪ゝして文明東漸の今日面も日本の首府に於て安心を買ふの代價を知らざるみと此の如しとは我輩は其路だ古人に似たるを怪ひものなり嘗ふに世界萬國中保險の爲めに金を投ずるとの多きは英國人に如くはなし蓋し其氣質の然らしむる所にして勤儉著實平生の覺悟最も立派あるが故に保險の必要を感ずるとも亦最も深く由て以て彼の富榮と安全の幸福を享受するとあるべし左れば若しも彼の英國人をして曾て保險をも付せざる東京神田區邊の有樣を觀察せしめたらば果して如何なる感想を惹起すべきや正に焦熱地獄にあるの思ひをなすとあらんか蓋々道理と實例との兩面に照して接するに能く勤儉著實の氣質に富むものは又能く保險の必要を感するみと深からざる所以は未だ世人此方法あるを知らざるに由るものか或は會社の基礎を危ぶむに由るものか是れも多少の關係あるとあらん歟なれども我輩を以て見るに勤儉著實の氣質に乏しきも亦與りて大に力ある事ならんと信ずるなり日本人は勤儉著實の氣質に乏し然らば冒險敢爲の氣象に富む者あるやと云ふに是れ亦決して然りと答ふると能はず英國人は勤儉著實の氣質に富む然らば冒險敢爲の氣象に乏しきやと云ふに却て英人の特色長所なりといふ而して兩國の富を計算するに實に霄壤當ならざるの相違ありとすれば我輩は先づ國民の氣質如何に向て訴ふる所なき能はず、保險の一事微細あらずと雖も英國の國情を談ぜ我が國人は深く演繹して省みる所あらんと希望するの餘一言ふゝに及びたるのみ

官報

○宮內省告示第十七號

聖上皇后兩陛下今六日京都御蒼堂名古屋御泊七日東京還幸仰出サル

但御發著時限其他編ヲ御豫定ノ通

明治二十三年五月六日　宮內大臣子爵土方久元

○遞信省令第九號

ナヴアヤ嶋(西印度)宛信書及商品見本ニ課スル郵便稅左ノ通改定ス

明治廿三年五月六日　遞信大臣　伯爵後藤象二郎

國名	經由地	信書	商品見本
ナヴアヤ島	桑港	毎十五グラム	五十グラム迄毎百グラム迄以上毎五十グラム
同	同	八錢	四錢
同	同	四錢	六錢
同	同	三錢	三錢

但同國ヘノ郵便稅ハ配達地マテ其効ヲ有ス

○東京市告示第三十三號

本市左ノ各區ニ於テ本月十五日區會議員三級撰擧ヲ同十六日二級撰擧ヲ同十七日一級撰擧ヲ行フ

投票箱出時限ハ各撰擧ノ當日午前七時ヨリ同十一時迄トス

各區ニ於テ撰擧スヘキ議員ノ數及撰擧ノ場所ハ左ノ如シ

明治二十三年五月六日　東京府知事男爵高崎五六

麻布區會議員

三級　一人　二級　一人　一級　一人

右ハ麻布區會議事堂內

深川區會議員

二級　一人　一級　一人

右ハ深川區深川靈巖町十八番地稚心學內

○東京市告示第三十四號

芝區三級撰出及下谷區二級撰出市會議員各一名議員ニ付本年七月三十一日其補闕撰擧ヲ行フ

明治二十三年五月六日　東京府知事男爵高崎五六

○新潟坂米豪商況　在新潟坂常議員代理中川恒次郎より本年四月十五日附の報告に據れば目下同地に於ける米の商況は在荷多きかため庶幾嘗て妻なりと云ふ即ち同地に於ける各國產米一コヤンの相場を擧くれは左の如し但し一コヤンは四十担にして凡そ六百四十三貫九百八十九匁二分に當る今一桝の目量を四百匁とするときは凡そ十六石一斗餘なり(去月十一日本欄參看外務省)

遞羅白一等新米	百十圓	遞羅圓盤青米新	七十八圓
遞羅圓盤精米	八十三圓	遞羅盤玄米	六十五圓
遞羅盤精米	七十圓	柴羅白一等	百圓
ラングーン產	九十七圓		

雜報

○電報受授の間違　昨日左の通り申來りたれば掲げて前報を是正す

客月二十三日發兌ノ貴社新聞第二千六百三十三號雜報欄內亂高下ニ就テ斬党町ノ奇談ト題スル項中(此區ヲ再ヒ夢ニモ知フス拔式ノ方ニアハ使ノ歸リ待詫ヲ再ヒ線子チ電信局ニ問合スレバ汗ハ先刻返信ヲ渡シメリヒヤ受取ラス證據コハ使ノ者ノ今以テ待居レリト互ニ論判ノ具最中先キニ受取リシ米商ノ小僧若者カ打揃ヒ何トテ誤報ヲ說シタルヤ電信局ヘ詰込ムモアリテ一時ハ右往左往ニ騷キ立チシ中々ノ混雜ナリシ)云々

時事新報社御中

○日本赤十字社　にては地方委員長其外の補欠として常議會に於て左の六氏を撰擧し上奏を經て就れも鄭托し奏

秋田縣委員長　鈴木大亮
長野支部副長　小野田元熙　同　同副長　小川弘水
愛媛支部副長　鈴木馬左也　同　梅若誠太郎　杉山由哲

○鹿兒嶋縣會の役員　鹿兒嶋縣會は役員撰擧の爲めとて去月二十八日より開會し總員四十名抽籤の上着席、直に議長以下順次に撰擧を行ひし處議長には折田兼至氏、副議長には山田海三氏、常置委員には厚地政敏、折田兼至、奧田直之助、池田惟貞、樣山資美、水間眞兼、長八次郎の七氏何れも當選したりといふ

○內國獸醫會　來る十日より十二日迄三日間毎日午前九時より芝公園彌生社に於て內國獸醫會と云ふを開設するよし

○地方新聞　山形縣羽後國酒田町より本月一日庄內新報と云へる自由主義の新聞發刊されたり又青森縣青森の東奧日報と長野縣長野の信濃毎日新聞とは孰れも本月一日より其紙面に改良を加へ以前よりは體裁も頗る見好くなりたり

○橫濱市會の議案　一昨日同市會議案を市長より議長の許へ送りたれは不日開會すべく其議案は彼の本町外十三國町に區會を設くるの諮問案及び廿三年度水道の議出入豫算幷に水道事務所書記、枝手、書記附屬員使丁の人員給料額其他三吉町外十五箇町土木費事課徵收期限を定むる件等にて第三十號より四十號に迄し當局者の場も注目する水道事務所の原案ある書記以下の人員及給料額は書記は一級上一人下一人、二級一人、三級一人、四級一人、五級一人、六級一人、七級五人、八級一人、九級一人、十級一人技手は一級上一人下一人、二級三人、三級一人、四級一人、五級一人、六級七人、七級二人、八級二人、九級一人、十級一人、附屬員十人、使丁十人にして此給料は書記上級七十五圓、下級六十圓、二級五十圓三級四十五圓、四級四十圓、五級三十五圓、六級三十圓、七級廿五圓、八級廿圓、九級十五圓、十級十二圓なりと云ふ

○神戸のインフリユーエンザ　一時歐洲の大陸を跋扈して米國に渡りたるインフリユーエンザ(流行性感冒)は早曉我邦よりも絕久て風說なきに神戸港には去る十日ルアルが五六名ありてより同居留地にも漸く平靜に赴くの樣なれども其後以來未だ一人も罹病者なきに至りたり

○燐寸製造家の苦況　近年にては少し近年にては各國の高價に而三年前も增して其筋の手を經て其筋に悲むべきも箱紙(箱のもせるもの)は其るものを送り來りて歐米の製造は之を知らず年ものと心得日本に遭遇の次第なり廣く世界へ知れと何とか左る樣に

○兵庫縣の夏作　般に注目する所は平均五分の作五分の收穫あるは萌芽よろしかは高く相場は事せば多少の損いふ

○麥菜種の雨害　らんとは人々の救治策を講じ既に白米一升十錢らず勞動者の却て下落するの に困む處なるが加せしは全く米にあらざれば りされど去月來 は大概麥菜種の中なるに霜若く に過ぎ實は殆 花散りて實を結め根元の腐敗し 陽に照されれば 農の見込を聞く その四五分作なら 作にして半毛な 如何なる樣狀を 家に非常の困難 難實するやも計